

さくら国際高等学校の評価（平成26年度）について（概要）

趣旨

さくら国際高等学校は、構造改革特別区域法に基づき上田市が認可を行い、株式会社立の学校として平成17年10月1日から開校しています。

開校後は、特区法に基づき、学校教育関連法令を踏まえて、学校経営の公共性、継続性・安定性の観点から、学校の教育、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について、上田市が毎年度評価を行い公表する必要があります。

よって、法の趣旨を踏まえ、学校の教育の状況などについて評価を行い、評価結果を公表することで、学校の透明性を確保するとともに、学校の教育の質の向上を図ります。

評価項目

評価項目は、学校の特色にも配慮しながら、学校経営の公共性、継続性・安定性の観点から評価できるよう次表のとおりを設定しました。

評価項目		評価における観点
1 教育の状況	(1)教育課程等の状況	ア 学校教育目標や生徒の状況を踏まえて教育課程を編成しているか。
	(2)学習指導等の状況	ア 添削指導を適切に実施しているか。
		イ 面接指導を適切に実施しているか。
		ウ 生徒の状況に応じた指導が行われているか。
(3)生徒指導の状況	エ 単位認定を適切に実施しているか。	
	オ 生徒の履修状況等を適切に管理しているか。	
(4)進路指導の状況	ア 学習への意欲や基本的な生活習慣などを向上するための指導が行われているか。	
2 組織及び運営の状況	(1)組織運営の状況	ア 生徒の状況に応じた進路実現に向けた指導が行われているか。
	(2)学校評価の状況	ア 教職員の役割分担が明確になっているか。
		イ 生徒の個人情報等が適切に管理されているか。
		ウ 自己評価における目標設定の状況はどうか。
	(3)学校に対する生徒・保護者の意見要望等の状況	イ 自己評価に至るまでの取組状況はどうか。
		ウ 学校関係者評価への取組状況はどうか。
(4)学校に関する情報提供の状況	ア 生徒・保護者からの意見等を取り入れる機会を設け、意見等に適切に対応しているか。	
(5)地域との連携の状況	ア 保護者に対して、学校の情報を適切に提供しているか。	
	イ 学校周辺の地域に対して、学校の情報を提供しているか。	
	ウ ホームページを活用し、学校の情報を広く提供しているか。	
(6)設置者の状況	ア 地域の教育資源や人材を活用しているか。	
3 施設及び設備の状況	(6)設置者の状況	ア 学校運営に当たって、経営は安定しているか。
		イ 業務状況書類等を学校関係者が閲覧することができるか。
	3 施設及び設備の状況	ア 施設及び設備の状況はどうか。

評価の対象

今回の評価は、平成25年度評価を踏まえ、これまでの学校の教育、組織及び運営並びに施設及び設備の状況の評価の対象としました。

上田市通信制単位制高等学校評議委員会からの意見聴取

評価に当たっては、平成27年2月6日に上田市通信制単位制高等学校評議委員会を開催し、教育活動の成果や地域交流の推進等の観点から意見を聴取しました。

（敬称略）

氏名	選出区分等	備考
野原 光	長野大学 学長	会長
大口 義明	塩田地域学校支援運営協議会 会長	副会長
北沢 秀雄	上小中学校長会 会長（第二中学校長）	
坂口 みゆき	卒業生保護者	
柴田 修身	上小高等学校長会 会長（上田千曲高等学校長）	
山内 静治	かしわや本店 社長	
山極 一雄	塩田地域協議会 委員（西塩田地区自治会連合会選出）	

評価の結果（抜粋）

評価項目		評価結果
1 教育の状況		
(1)	教育課程等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程に特別な教科・科目は設けられていないが、指導面における生徒の学び直しを意識して、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させることに重点を置いて指導を行うよう徹底されている。 ・学習活動や地域交流などの体験学習を通して、学校教育目標に掲げる「生徒が社会的自立を果たしていくこと」、高等学校学習指導要領の「生徒に生きる力をはぐくむ」とする趣旨を踏まえている。 ・学校教育目標を達成していくために、学習指導要領の趣旨との整合を図りながら、生徒の状況に応じた特色ある教育活動が展開されていくことを期待する。
(2)	学習指導等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・入学前の個別面談や学習相談によって、生徒の状況を把握した上で、入学後、生徒一人ひとりの学習状況に応じた指導・支援が行われていることは、本学校における教育の最も大きな特色である。これが学習の継続的な動機付けの一つとなり、多くの生徒を卒業に導いていると考える。 ・入学前に行う学習相談は、再学習のきっかけとなり、他の希望する高等学校へ入学した生徒もいることから、この地域全体における進路指導の一助にもなっている。 ・添削指導、面接指導及び試験の実施に当たっては、国からの通知内容にも留意しながら、添削指導回数や面接指導時間数等を遵守し、引き続き教育の質を確保していく必要がある。
(3)	生徒指導の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の状況把握の工夫に努め、教職員全体でその状況についての理解を共有し、組織的な指導が行われることを期待する。 ・あいさつについても、地域交流活動への参加や社会生活を送っていく上でのコミュニケーションの基本であることから、引き続き実践されることを期待する。
(4)	進路指導の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・きめ細やかな指導による学習活動を通して、生徒に学ぶ楽しさを体得させ、継続して学習に取り組む意欲を持たせることができていると考える。 ・地域交流などの体験活動を通して、生徒は自分の力が必要とされていることを確認し、社会に適應できるコミュニケーション能力を身につけることができていると考える。 ・これらのことは、あいさつの習慣や基本的な生活習慣を身につけることとあわせ、生徒が社会人として自立していくための能力や態度の育成につながっていると評価する。
2 組織及び運営の状況		
(1)	組織運営の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の連絡調整を密にし、教職員間の情報共有を更に進めていく必要があると考える。 ・生徒の個人情報等の管理については、引き続き万全を期していく必要がある。
(2)	学校評価の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学校自己評価後は、職員会議等で更なる検討を行い、教育活動の改善や向上につなげていることから、実効性のある取組になっていると考える。 ・評価結果を学校ホームページに公表するなど、適切な取組がなされていると評価する。
(3)	学校に対する生徒・保護者の意見要望等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者からの意見要望を把握し、適切な対応を行うことは、学校との信頼関係を構築する上で非常に重要な取組である。引き続き、意見要望の把握や適切な対応に努められることを期待する。
(4)	学校に関する情報提供の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・丸窓電車や煌桜祭は、地域内外から人々が本校に訪れる一つのきっかけになっているとともに、学校を知ってもらう上でも重要な役割を果たしていると考えられる。 ・ホームページは全面更新され、見やすさが向上し、知りたい情報を取得しやすくなっている。また、内容の充実も図られており、今後もホームページ等を活用した積極的な情報により、開かれた学校づくりを進められることを期待する。
(5)	地域との連携の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や保育園との積極的な交流は、生徒のコミュニケーション能力を向上させるなどの効果にとどまらず、本学校に対する地域住民等の理解を深めることにもつながっている。 ・学校と地域の交流は、教育特区に掲げる社会的効果にも寄与しているものと評価する。 ・交流活動の質を確保し、本学校における教育活動の成果を高められることを期待する。
(6)	設置者の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社は複数事業を展開することが許容されているが、本学校の設置者においては学校運営を他事業部門に依存することやその業績に左右されるなどの懸念はないと考える。 ・決算状況等も踏まえて判断すると、学校経営における安定性は引き続き確保されていると考える。 ・今後においても、生徒・保護者や地域との信頼関係の構築を図るなど、生徒数の確保を図るとともに、経費節減にも努め、引き続き健全な運営を図っていく必要がある。
3 施設及び設備の状況		
(1)	施設及び設備の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・校地・校舎は市からの借用であるが、新校舎の建設、中庭の整備及び冷暖房設備の設置を行うなど、教育環境の向上等を図る積極的な取組について評価できる。 ・現在検討中の校舎の耐震化が今後の課題である。

総括

本学校は、平成17年10月1日に開校して以来、さまざまな悩みや事情を抱える生徒を受け入れ、生徒一人ひとりの学習状況に応じた指導・支援を行っている。また、生徒が自分の力の必要性を再確認し、社会に適應できるコミュニケーション能力を身につけることができるよう、地域との交流や地域の教育資源を活用した体験学習を積極的に取り入れている。その結果、生徒は学ぶ楽しさを知るとともに、自尊心や自己肯定感を高め、教育目標に掲げる社会的自立への確かな一歩につながるなどの成果を上げている。

平成27年4月1日から、本学校は学校法人立学校へ移行する予定である。したがって、上田市による学校評価は今回が最後になるが、学校法人化後においても、引き続き設立時の理念を堅持し、これまでの教育活動を継続されることに加え、安定した運営のもと、これまで以上に地域貢献活動を活性化させ、より魅力ある学校となることを期待する。